

光徳寺

光り輝く徳の寺

「光り輝く徳の寺」という意味の光徳寺は、1500 年頃に開山されたと考えられています。歴史文献によると、光徳寺は 1599 年までには臨済宗の禅寺となっていました。平民などが使った比較的質素な通用門と、装飾をほどこした身分の高い客人用の勅使門のふたつの門があることにご注目ください。本堂、厨房と庫裡は、いずれも江戸時代（1603 年～1868 年）に建設されたものです。

本堂には病気を治す仏様の薬師如来像 1 体と、七福神のひとり、ふくよかな恵比寿像 1 体が祀られています。耳をよく澄ますと、足元から床が音を聞くことができますが、これは侵入者の存在を知らせるために設置された鶯張りという仕掛けです。庫裡の奥の壁には、桔梗の形をあしらった非常に大きな寺紋があり、車付き駕籠も展示されています。この車付き駕籠は、妻籠の最北端の土地を開拓し始めたことでも知られる、この寺の進取的な住職、遂応和尚が 19 世紀の後半に発明したものです。

当初、本堂の屋根は、板葺きでしたが、1941 年には瓦屋根に代わり、瓦屋根が重すぎることが証明された 2014 年には銅板葺きに代わりました。悪霊を撃退させるために瓦屋根の棟の端に設置された、重量 120kg の鬼瓦のひとつが境内に展示されています。